

科目ナンバー	C3207	要件	保育必修	授業形態	演習	対象学生	Ⅱ A Ⅲ C D
授業科目	相談援助						
実施期	後期	単位数	1単位	授業担当者	岩本 健一		
【科目の概要】							
<p>保育者は子どもの発達を保障し、養育の代替を行うだけでなく、養育に関する広範な相談を保護者から受け、対応していくことが望まれている。相談援助とは何かという基本的なところから、具体的支援の内容について学習する。</p>							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	相談援助に関する基本的な知識を修得することができる。						1-c
イ	子どもと家族の理解に基づいた支援技術を身に付けている。						2-c
ウ	子どもと家族の理解に基づいた支援策を考え、立案することができる。						3-d
エ	事例研究やロールプレイ等で、利用者の立場になって思考することができる。						4-d
【授業の内容】					【実施日】	【授業時間外学習の内容】	
1	相談援助演習の意義			月 日	シラバスを熟読しておくこと。課題については、フィードバックを行う。		
2	相談援助技術の共通基盤と展開過程			月 日	課題「フォローアップの必要性」(0.5時間)		
3	自己覚知 (意見発表)			月 日	課題「自己覚知を考える」(0.5時間)		
4	価値観			月 日	課題「アサーション」(0.5時間)		
5	他者理解			月 日	課題「事例から考える」(0.5時間)		
6	受容と共感 - ケースワーク			月 日	課題「相手を知り感じる」(0.5時間)		
7	傾聴 - グループワーク			月 日	課題「発言する・傾聴する」(0.5時間)		
8	ストレングス視点-コミュニティワーク (獲得を目指す力の確認)			月 日	課題「利用者のストレングス」(0.5時間)		
9	敬意 (意見発表)			月 日	課題「援助者の幸せ」(0.5時間)		
10	基礎理論を学ぶ - クライアント中心理論とエコロジカル理論			月 日	課題「ライフ・コース」(0.5時間)		
11	基礎理論を学ぶ - 行動理論・認知理論			月 日	課題「自動思考をとらえる」(0.5時間)		
12	基礎理論を学ぶ - エンパワメント理論・システム理論			月 日	課題「家族へのアプローチ」(0.5時間)		
13	実践の方法を学ぶ - マッピング技法			月 日	課題「フェイスシートの記入」(0.5時間)		
14	実践の方法を学ぶ - 記録の書き方			月 日	課題「実習日誌の振り返り」(0.5時間)		
15	実践の方法を学ぶ - 生涯学習の重要性			月 日	課題「ライフサイクル」(0.5時間)		
16	試験			月 日			
【教科書・テキスト】 中寫洋・園川緑編著『相談援助演習入門』萌文書林、2015年。				【成績評価の方法】 レポート・平常点(提出物、発表、グループ作業の成果)60% 定期試験40%			
【参考書・教材】							
【履修要件及び履修上の注意事項】 演習ではグループ討議を行うこともあるので、積極的に討議に参加し、設定時間を十分に活用すること。課題は、教員からフィードバックを行った上、返却する。							
【履修上の遵守事項】							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先：N5岩本研究室 オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	相談援助の歴史的経緯と今日のアプローチに関する知識		相談援助の歴史的経緯や基本的な用語を知っている。	相談援助の歴史的経緯や基本的なアプローチ方法を知っている。	相談援助の歴史的経緯や基本的なアプローチ方法を理解し、簡単に説明することができる。
イ①	相談援助に必要なコミュニケーションの技術		コミュニケーションの基本的な技術を知っている。	コミュニケーションの基本的な技術を理解し、やってみることができる。	コミュニケーションの基本的な技術を理解し、ロールプレイ等で活用することができる。
イ②	相談援助における記録や支援計画の立案力		面接記録やマッピングを理解し記載することができる。	面接記録やマッピングを理解し、事例などで記載することができる。	面接記録やマッピングを理解し、事例などで活用するとともに、支援策を立案することができる。
ウ①	アセスメントやプランニングについての思考力		インテークとアセスメントの留意事項を知っている。	インテークとアセスメントからプランニングに発展させることができる。	支援の過程で起こる問題について、計画を変更することができる。
ウ②	支援内容の評価と支援方法を考える力		ケース過程から、再評価する必要性を知っている。	ケース過程から、全体を俯瞰し、問題点を指摘することができる。	ケース過程から問題点を指摘し、対応する支援策を展開させることができる。
エ	保育者としての感性		グループワークで他者と積極的に会話することができる。	グループワークで他者の意見を聞き、自分の意見を展開させることができる。	グループワークで積極的にリーダーの役割をとり、意見をまとめることができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					